

令和2年度 学校自己評価システムシート（県立浦和高等学校 定時制課程）

目指す学校像	社会的自立を目指し、未来を拓く青年の育成
--------	----------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒個々に対応した基礎学習を充実させ、学習習慣の定着を図り、大学進学に向けた発展的な学習を組織的に取り組む。 2 キャリア教育・進路指導を学年や進路指導部を主体とした組織的な取組により、生徒の進路意識を向上させる。 3 定時制の生徒に合致した「主体的・対話的で深い学び」による授業で、能動的な学びを身につけさせる。 4 組織的かつ計画的に、日々の教育活動を発信し、開かれた学校づくりを進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえた評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (3 月 5 日 現 在)				
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・新型コロナウイルスによる影響で、学習習慣の欠如と学習の遅れが心配される。家庭でもICTを活用した学習ができるように多角的にサポートすることが課題である。また中学校を不登校だった生徒も多く在籍しており、学びなおしを含めた基礎学力の向上が必要である。	・生徒個々への学習指導体制の充実と学校生活に自信や目標を持った生徒の育成を目指す。	①ICTを利用して授業を支援する動画を作成し、YouTubeにアップする。 ②チームティーチングの効率的な活用 ③学習サポーターの補習への活用 ④多様な文化を持つ生徒への対応のため推進員を活用する。	①各教科1本以上授業動画を作成する。 ②各授業に於いて個々に応じた工夫を実践する。 ③基礎学力定着テストによる定着度の検証をする。 ④多文化共生推進員との連携を強化する。	①合計12本の動画を作成し授業でも活用することができた。 ②大学院生による学習サポーターとのTTが効果的に行えた。 ③国語、数学、英語とも概ね学力の向上が見られた。 ④4年生の進路指導にも加わってもらい、成果を上げることができた。	A	日常の授業や宿題などでも教員作成の動画を活用し、学力の底上げができるよう、更なる工夫を行う。 継続的に基礎学力定着テストを行い、学力の伸びを分析しながら日常の授業に生かす。
2	・生徒の進路に対する意識が低く、将来の夢ややりたいことを見つけれない状況にある。生徒の進学・就職支援を充実し進路意識の向上を図り、将来の夢や目標を持たせ、進路実現につなげることが今後の課題である。	・4年間を通して系統的なキャリア教育・進路行事等を組織的におこない、各種の学校行事との円滑で効率的な連携を目指す。	①かわぐちサポステとの連携により、進路講演会・SST・社会体験事業を昨年度実施する。 ②外部教育力を活用したキャリア教育の推進。 ③自発的な取組ができるよう、「浦定チャレンジ」を推進。	①80%以上の生徒が「コミュニケーション能力が上がった」と回答。 ②生徒の進路決定率とアンケートの結果。 ③80%以上の生徒が自発的に取組を行えたと回答。	①92%の生徒が「周りの仲間についても気を付けてながら普段の生活をしている」と回答した。 ②4年生の9割の生徒が進路決定できた。 ③89%の生徒が「自分の学校生活は充実している」と回答した。	A	外部教育機関と連携したワークショップが実施でき、生徒のコミュニケーション能力も向上した。 コロナウイルスの影響で校外での進路活動はできなかったが、サポートステーションの個人面談等有効に活用できた。次年度も継続したい。
3	・基礎学力の定着と、身に付けた学力をどのように活用するのかが本校の課題である。生徒個々の学力差も大きく、理解の深まり方も差が大きい。そのため、さまざまな学習活動の工夫により多様な生徒への対応が望まれる現状にある。	・主体的・対話的で深い学びによる知識の定着を達成でき、基礎学力や発展的学習が深まった生徒の育成を目指す。	①「主体的・対話的で深い学び」による授業の実施。 ②未来を拓く「学び」プロジェクトによる、他校及び中学校教員への授業公開の実施。 ③他校定時制との情報交換による、授業力の向上。	①全教員が授業において、「主体的・対話的で深い学び」を各学期に1回以上実施。 ②公開授業により、他校教員及び中学校教員の参加者を増やす。 ③他校定時制教員との情報交換交流を1回以上実施。	①多くの教員が「主体的・対話的で深い学び」を各学期に1回以上実施 ②新型コロナウイルス感染症の影響で本年度は公開授業を実施できなかった。 ③定時制・通信制振興会生徒発表会等で他校教員と情報交換ができた。	B	知識構成型ジグソー法を用いた授業や体験的な演習を取り入れた授業を積極的にを行い、学習における基礎基本の徹底を図る。 コロナウイルスの影響で公開授業は実施できなかったが、特徴的な授業は今後もHPで紹介したい。
4	・保護者会への参加希望は多いが、実際の参加率はその半分程度である。今後保護者が参加しやすい時期や内容を検討していく工夫が必要である。また、中学校との連携を維持・強化することが課題である。	・学校HPを活用し、情報発信を積極的にを行い、生徒保護者や中学校との連携体制を構築する。	①公開行事等において、保護者の参加を促し、日常の教育活動の理解への強化。 ②給食指導等による「食育」を充実、食の大切さ、命の重さの指導。 ③保護者対象のアンケートを実施。 ④学校HPの定期的な更新と内容の改善。	①保護者対象の講演会等に前年度を上回る保護者が参加 ②給食喫食率と残食を最小限とし、給食満足度を70%とする。 ③保護者会に「参加した」と「参加したい」の検証。 ④更新回数目標（50回）	①新型コロナウイルス感染症の影響で本年度は実施できなかった。 ②91%の生徒が給食に満足していると回答した。 ③57%の保護者が保護者会に参加したいと回答。 ④定時制課程HPの更新を60回行った。本年度の志願者は増加した。	B	三者面談や保護者会を計画的に実施し、学校と家庭との連携をより一層強める。 きめ細かくHPを更新し、保護者や中学生、地域の方々に浦和高校定時制を幅広く知ってもらおう。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和3年3月6日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
継続的に基礎学力定着テストを行っているとのことですので、学年が進むにつれて、自分自身の基礎学力が向上していることが分かれば、自信にも繋がることと思います。	
4年生の9割が進路決定できたのは、先生方のご指導の結果であり、良かったです。できたら直近の卒業生が来校（職場で休暇がとれたら）して、在校生に進路決定できた体験を話す機会がもてたら効果的だと思っています。	
コロナの影響で公開授業が実施できなかったのは残念でしたが、例えば、教室の後ろに固定カメラを置いて、生徒・先生の状況を撮影して、後で映像を見るなど、授業公開に代わる方法を考えてみるのも良いのではないのでしょうか。	
HPの更新を60回行って50回の目標を達成されたのは良かったです。これが、志願者数増加に繋がったのも良かったです。	

